

第32期 年次報告書

平成19年7月1日から平成20年6月30日まで



Industrial Device



Medical

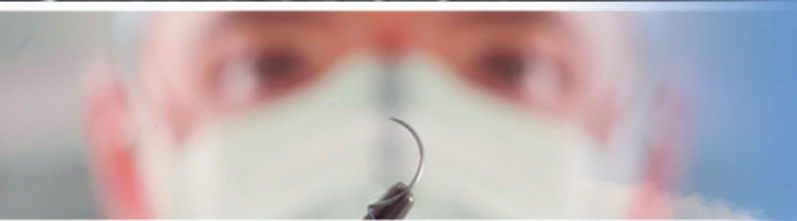


Medical Device





Industrial Device



Medical Device



Medical

目次

ごあいさつ ————— 2

連結財務ハイライト ————— 3

トピックス ————— 5

セグメント別営業の概況 ————— 7

財務諸表（連結） ————— 9

- 連結貸借対照表 ●連結損益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書

財務諸表（単体）・株式の状況 ——— 11

- 貸借対照表 ●損益計算書
- 株主資本等変動計算書 ●株式の状況

会社の概要・株主メモ ————— 13



株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、ここに当社グループ当連結会計年度（平成19年7月1日から平成20年6月30日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当社グループが属する医療機器業界は、国内では国民医療費増加の抑制や内外価格差の是正等を目的として、厚生労働省により保険償還価格の引下げや、診療報酬包括化等の医療制度改革が進められております。また海外では、同業者間の価格競争が激化・拡大しており、海外市場価格は日本より低いのが現状であります。このように、国内外共に医療機器業界は、厳しい環境下に置かれており、合理化と企業戦略の見直しが求められていると言えます。また、サブプライムローン問題に端を発した米国経済の低迷により、世界各地の景況感にも大きな影響が出始めており、医療機器業界のみならず産業機器業界におきましても、原材料価格の高騰、さらには急激な米ドルに対する円高の影響を受け、当社グループは全事業共に厳しい経営環境にあるといえます。

このような環境の中、当社グループの当期における売上高は、為替動向の変化や主要取引先であるアボット ラボラトリーズ社との取引減少に伴い海外売上高が大きく減少いたしました。アボット ラボラトリーズ社以外の売上高は前年比で増加したことなどから、117億円（前年同期比0.5%増）になりました。

売上総利益におきましては、主要取引先であるアボット ラボラトリーズ社への売上高の減少に伴う減産の影響のほ

か、タイパーツ高など為替動向の変化に伴う製造経費の増加、主要原材料であるステンレスやプラチナなどの価格高騰に伴う原材料費の増加、FDA（米国食品医薬品局）やMDD（欧州医療機器指令）などの世界レベルに準じた品質保証レベルに準拠するための諸費用の増加、連結子会社ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.の立上げに伴う諸経費の増加など複合的な要因により、58億66百万円（同11.7%減）、営業利益10億57百万円（同49.7%減）、経常利益9億37百万円（同57.4%減）、当期純利益4億73百万円（同59.2%減）となりました。

当社グループは、研究開発型企業として医療及び産業機器分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢」を実現すると共に、広く社会に貢献していくことを企業理念としております。

当社グループの医療機器分野事業は、主に傷口が小さく痛みの少ない「低侵襲治療」の製品を開発・製造・販売しており、患者様の肉体的・精神的・経済的負担を軽減し、そして医療費抑制にも貢献できる大変意義のある事業であると考えております。

今後も社会に貢献できる企業であり続けることで、社会からも市場からも評価される企業として、さらなる成長を遂げたいと考えております。

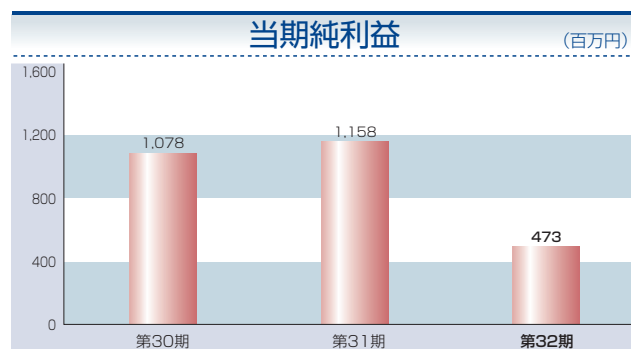
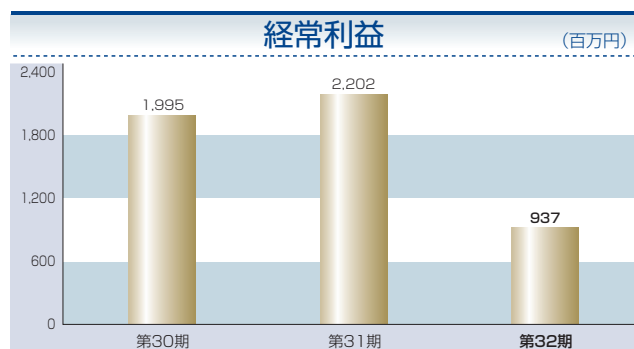
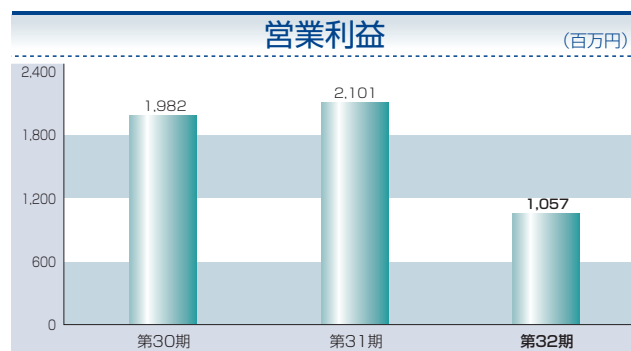
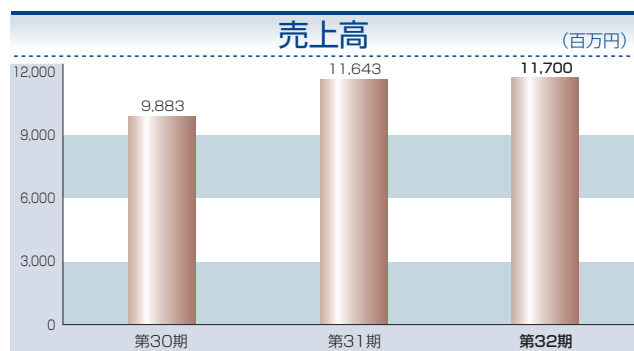
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年9月

代表取締役社長

喜田尚彦

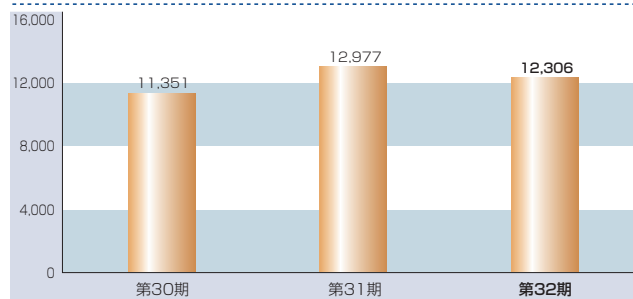
連結財務ハイライト



区 分	第30期 (平成18年6月期)	第31期 (平成19年6月期)	第32期 (平成20年6月期)
売 上 高 (百万円)	9,883	11,643	11,700
営 業 利 益 (百万円)	1,982	2,101	1,057
経 常 利 益 (百万円)	1,995	2,202	937
当 期 純 利 益 (百万円)	1,078	1,158	473

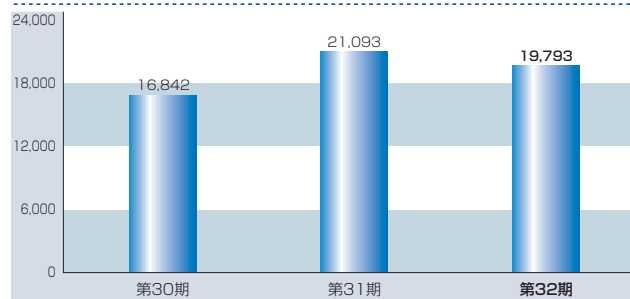
純資産

(百万円)



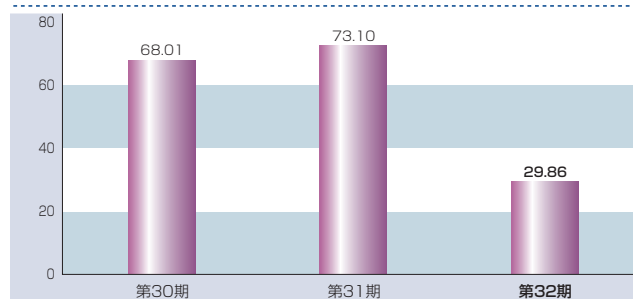
総資産

(百万円)



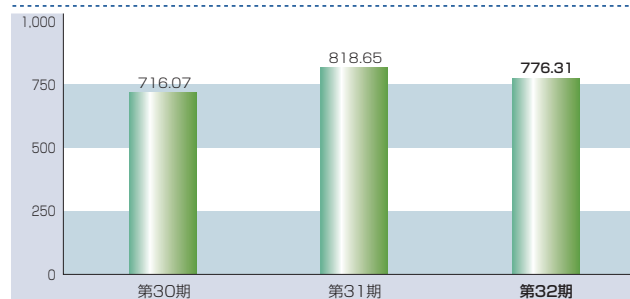
1株当たり当期純利益

(円)



1株当たり純資産

(円)



区 分	第30期 (平成18年6月期)	第31期 (平成19年6月期)	第32期 (平成20年6月期)
純 資 産 (百万円)	11,351	12,977	12,306
総 資 産 (百万円)	16,842	21,093	19,793
自 己 資 本 比 率 (%)	67.4	61.5	62.2
1株当たり当期純利益 (円)	68.01	73.10	29.86
1株当たり純資産 (円)	716.07	818.65	776.31
1株当たり配当金 (円)	17.50	17.50	17.50

Topics 1 世界で積極的なプロモーション活動を展開中！

メディカル事業

低侵襲治療に関する世界最大級の学会「EuroPCR08」(Barcelona, Spain) が2008年5月に開催されました。世界各国から1万人超のドクターを含め2万人を超える医療関係者が結集し、当社製品が世界的に評価を得ているCTO（慢性完全閉塞）に関するセッションが数多く開催されたほか、PCI手技のライブ中継には多くの当社製品が使用され、当社の展示ブースにも世界各国のドクターや販売代理店が訪問されるなど、当社製品に対する注目の高さが伺えました。

国内はもとより、世界各地で積極的なプロモーション活動を展開しています。
(EuroPCR : <http://www.europcr.com/>)



Topics 2 新製品のご紹介！

メディカル事業

ASAHI Douvan (PTCAバルーンカテーテル)

当社独自のハイポチューブとACTONE技術を集結し、優れた力の伝達性を備えると同時に、高い滑り性能により滑らかな操作感を実現しました。心臓血管内の様々な病変に対して優れた通過性を発揮し、狙った病変部をスムーズに捉えます。



SheathLessPV (PTAガイドィングカテーテル)

PTCA市場で展開中の「SheathLess」を年々増加している四肢領域インターベンション（PTA）用ガイドィングカテーテルに応用しました。ブレード構造による高い力の伝達性に加え、従来の製品にはなかったトルクコントロール性能やシャフト外層への滑り性の高い親水性コーティングによって、四肢末梢部の屈曲した血管内の病変に対してもスムーズなアプローチが可能となりました。



Medical Device

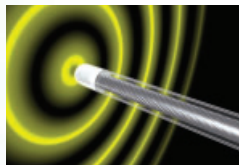
Topics 3 医療部材ブランド『with ACTONE』の展開

メディカルデバイス事業

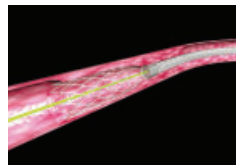
メディカルデバイス事業においては①部材ブランドの価値向上、②他社との差別化、③医療部材としてのビジネス展開を追求する目的で、当社のコアテクノロジー（伸線技術、ワイヤーフォーミング技術、トルク技術、コーティング技術）を活かすことによって開発されたACTONEを医療部材としてブランド化し、『ASAHI』ファンを増やすことでグローバルでのビジネスチャンスを拡大することを計画しています。そのため、現在、医療部材ブランド『with ACTONE』のマーケティング活動を行っております。また、お客様からの新たな要求に応えるべく開発活動推進中であり、今後販売エリアの拡大も睨んだ活動を実施していきます。



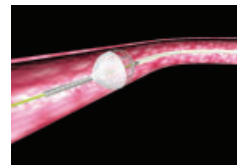
●超音波イメージングカテーテル



●ステントデリバリーデバイス



●フィルタードバイス



Industrial Device

Topics 4 新たな高機能「釣り糸」【グレメタル】の誕生

インダストリアルデバイス事業

ダイワ精工株式会社様の強力なマーケティングと当社の独自技術の融合により開発された「鮎釣り糸」シリーズ【M Stage (エムステージ)】【META COMPO II (メタコンポII)】は、販売開始以来、ユーザーの皆様の高い評価を頂いております。

更なる商権の拡大を図るべく、今年9月、新たに金属製「磯釣り糸」【グレメタル】の市場への投入が実現いたしました。

この【グレメタル】の開発にあたり、ダイワ精工株式会社様から頂いた市場ニーズには、40センチ～50センチオーバーといった大きなサイズもあり得る、強い引きが特徴の海魚「グレ」を釣り上げるにあたり、従来のナイロン・フロロなどの樹脂製「磯釣り糸」における「グレ取り逃がしの三大要因」の克服がありました。

- ①根（海底の岩）ズレにより、糸が切れて取り逃がす。
- ②根（海底の岩）に張り付かれ、糸が切れて引上げられない。
- ③強い引き・鋭歯・エラブタにより、糸が引き千切られて逃げられる。

そこで、当社独自の細径ハイテンションワイヤーによる開発・試作を進め、ダイワ精工株式会社様・当社によるフィールドテスト結果をフィードバックすることで、高強度・耐根ズレ特性（従来比 約25倍）を実現し、金属釣り糸の難関である結束性も維持しながら、これらの三大要因の克服に成功いたしました。

引き続き、高機能製品の新規開発、既存製品の更なる改良開発により、商権の拡大を図ってまいります。

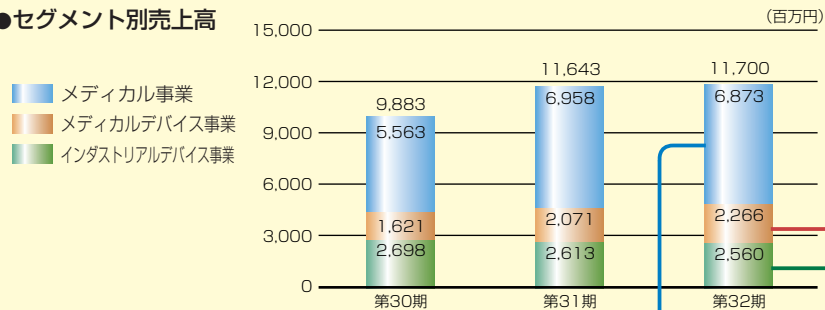


ホームページにて、最新の情報をご覧ください。 ▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

セグメント別営業の概況

当社グループは、製品内容に応じ、
 メディカル事業、
 メディカルデバイス事業、
 インダストリアルデバイス事業の
 3事業にて構成されております。

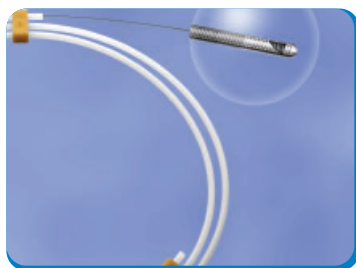
●セグメント別売上高



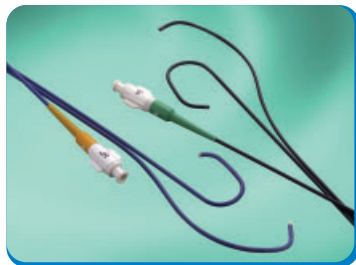
Medical

メディカル事業

～世界市場への展開を加速化～



PTCAガイドワイヤー



PTCAガイディングカテーテル

メディカル事業では、循環器系を中心とした低侵襲治療（注1）製品について、欧米市場を中心としたグローバル市場への展開の加速化に取り組んでおります。

この数年来、PTCA治療（循環器系における低侵襲治療）は、心臓疾患患者数の増加や、再狭窄率を低減する薬剤ステントの普及、さらには他社にはない高い優位性を持ち、かつCTO（注2）治療も可能な当社のPTCAガイドワイヤーが欧米市場にて近年販売が開始されたことなどから、欧米市場を中心に症例数が増加する傾向にありましたが、平成18年度にPTCA治療に使用する薬剤ステントの安全性の懸念が発生したことを契機とし、薬剤ステント市場が大きく縮小、さらにはこれがPTCA市場全体に影響し、平成19年度のPTCA治療件数は増加から一転、米国を中心に10%以上の減少に転じております。現在当社は、欧米地域においては、アボット ラボラトリーズ社と販売代理店契約を締結しております。この契約では、1月～12月の一年間をベースとした最低取引本数が平成22年まで確定しておりましたが、このような急な環境悪化に伴い、当社はアボット ラボラトリーズ社より平成20年度の最低取引本数の見直しについて要請を受けており、現在協議を開始しております。この協議開始に伴い、平成20年1月以降（下半期）のアボット ラボラトリーズ社への売上高は前年同期に対して大きく減少しております。よ

つ、治療用カテーテルシステムの売上高は、国内・アジア・中近東地域などを中心に順調に伸びたものの、欧米地域への売上高が減少し、前年同期に対して減少するに至りました。

また、検査用カテーテルシステムについては、競合品との競争激化の影響を受けたものの、国内市場を中心に販売を強化したことから、前年同期に対して売上高は増加いたしました。

以上の結果、売上高は68億73百万円（前年同期比1.2%減）、営業利益は15億58百万円（同31.6%減）となりました。

注釈説明

注1. [低侵襲治療] 患者の精神的・身体的ダメージを最小限に抑えるために、開胸・開腹手術をすること無く、太腿や手首から血管を通じて行う傷口や痛みが少ない治療のことを言います。通常の外科手術に比較し、患者へのダメージが軽減されるほか、入院期間が短縮される等の利点があり、また付随して患者の経済的負担の軽減や、政府の医療費抑制策にも貢献する治療法とされています。

注2. [CTO] 慢性完全閉塞と言って長期間完全に閉塞した状態の病変のことを言います。従来は、このような病変は外科手術（バイパス手術）の領域でしたが、当社がCTOにも使用可能なPTCAガイドワイヤーの開発に成功したことから、現在では、国内においてはPTCA治療（循環器系における低侵襲治療）が主流となっています。

Medical Device メディカルデバイス事業 ～新領域分野への進出～

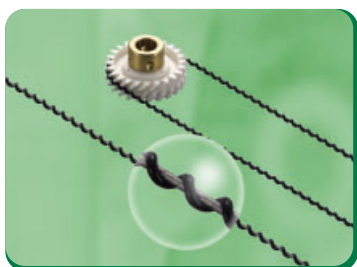


ACTONE® (アクトワン)

メディカルデバイス事業では、循環器以外の新領域分野への進出や業績は好調に推移しており、OEM供給品につきましては、中心静脈用をはじめとしたガイドワイヤーや脳動脈瘤の塞栓に使用される医療部材など国内市場向けの低侵襲製品を中心に前年同期に対して売上高は増加しております。この背景には、国内市場の医療機器について、政府の医療費抑制政策や、同業者間における価格競争が激化していることによる価格の低下に伴い、大手医療機器企業が強力な販売網を活かし「販売」に注力すべく、「製造」については当社のような技術力、生産力に強みを持つ企業へのアウトソーシングに委ねる傾向にあることがあります。また、医療用部材についても、米国市場向けの心臓検査用医療機器部材の受注などが増加しており、前年同期に対して売上高は増加いたしました。

以上の結果、売上高は22億66百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は3億47百万円（同30.7%減）となりました。

Industrial Device インダストリアルデバイス事業 ～高付加価値製品へのシフト～



シンクロメッシュロープ

インダストリアルデバイス事業では、OA機器複合化などに伴う部品市場価格の下落や、国内外の競合メーカーとの価格競争激化に加え、各市場における景況感の悪化もあり、ますます厳しい事業環境となっております。

また、当社製品の主要原材料であるステンレス等合金鉄の価格は、依然として高値で推移しており、当事業におきましては、引き続き高付加価値製品へのシフト、販売価格の見直しに取り組んでおります。このような厳しい市場環境の中、ワイヤー素材については、建築関連製品において市況の悪化による取引の減少、レジャー関連製品においては消費者の購買意欲低下等の影響により取引が減少したものの、海外大手OA機器企業向けのプリンター用タンクステン製品や自動車排気ガス浄化装置製造関連製品の取引などが増加し、前年同

期に対して売上高は増加いたしました。

一方、端末加工品については、市場で高い評価を得ている大手家電メーカーエアコン用に供給されている当社独自の高性能製品の取引が増加したものの、OA機器関連製品の取引が減少したことなどにより、前年同期に対して売上高は減少いたしました。

以上の結果、売上高は25億60百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は2億98百万円（同32.6%減）となりました。

財務諸表（連結）

連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第31期 (平成19年6月30日現在)	第32期 (平成20年6月30日現在)
[資産の部]		
流動資産	10,277,107	9,803,727
現金及び預金	3,140,070	2,822,229
受取手形及び売掛金	3,111,738	2,487,820
たな卸資産	3,129,568	3,520,939
繰延税金資産	143,414	118,558
その他	761,401	858,351
貸倒引当金	△9,086	△4,172
固定資産	10,816,889	9,989,599
有形固定資産	7,699,688	7,141,380
建物及び構築物	3,828,153	3,597,531
機械装置及び運搬具	1,960,370	1,581,353
土地	1,346,248	1,323,429
建設仮勘定	167,835	251,971
その他	397,079	387,095
無形固定資産	130,030	149,095
投資その他の資産	2,987,171	2,699,123
投資有価証券	1,795,937	1,455,267
繰延税金資産	1,183	1,063
保険積立金	720,702	780,591
その他	487,262	480,100
貸倒引当金	△17,915	△17,900
資産合計	21,093,996	19,793,327

(単位：千円)

科 目	第31期 (平成19年6月30日現在)	第32期 (平成20年6月30日現在)
[負債の部]		
流動負債	4,108,950	3,567,041
支払手形及び買掛金	816,585	349,133
短期借入金	1,958,314	2,005,586
未払金	301,309	597,687
未払法人税等	316,916	117,546
賞与引当金	77,575	76,789
役員賞与引当金	40,000	—
その他	598,248	420,298
固定負債	4,007,305	3,919,874
長期借入金	3,278,413	3,224,527
繰延税金負債	143,179	36,261
退職給付引当金	196,139	247,951
役員退職慰労引当金	378,966	378,966
その他	10,607	32,168
負債合計	8,116,255	7,486,916
[純資産の部]		
株主資本	12,229,834	12,425,818
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,060,960
利益剰余金	4,001,080	4,197,064
自己株式	△156	△156
評価・換算差額等	747,906	△119,407
その他有価証券評価差額金	117,679	△84,069
為替換算調整勘定	630,227	△35,338
純資産合計	12,977,741	12,306,410
負債純資産合計	21,093,996	19,793,327

連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	第31期	第32期
	(平成18年7月1日から 平成19年6月30日まで)	(平成19年7月1日から 平成20年6月30日まで)
売上高	11,643,659	11,700,655
売上原価	5,000,176	5,834,637
売上総利益	6,643,482	5,866,017
販売費及び一般管理費	4,542,155	4,808,908
営業利益	2,101,326	1,057,109
営業外収益	171,617	98,663
営業外費用	70,741	218,233
経常利益	2,202,203	937,539
特別利益	2,594	87,642
特別損失	97,369	179,757
税金等調整前当期純利益	2,107,428	845,423
法人税、住民税及び事業税	786,050	318,336
法人税等調整額	162,492	53,683
当期純利益	1,158,884	473,403

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	第31期	第32期
	(平成18年7月1日から 平成19年6月30日まで)	(平成19年7月1日から 平成20年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,005	1,116,522
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,523,004	△887,186
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,991,001	△259,387
現金及び現金同等物に係る換算差額	82,506	△174,284
現金及び現金同等物の減少額	△433,490	△204,336
現金及び現金同等物の期首残高	3,253,022	2,819,531
現金及び現金同等物の期末残高	2,819,531	2,615,195

連結株主資本等変動計算書 (平成19年7月1日から平成20年6月30日まで)

(単位:千円)

	株 主 資 本					評価・換算 差額等合計	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	4,001,080	△156	12,229,834	747,906	12,977,741
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△277,419		△277,419		△277,419
当期純利益			473,403		473,403		473,403
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△867,314	△867,314
連結会計年度中の変動額合計	-	-	195,984	-	195,984	△867,314	△671,330
平成20年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	4,197,064	△156	12,425,818	△119,407	12,306,410

財務諸表（単体）・株式の状況

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第31期 (平成19年6月30日現在)	第32期 (平成20年6月30日現在)
[資産の部]		
流動資産	7,572,167	7,372,345
現金及び預金	1,766,172	1,590,654
受取手形	445,824	394,283
売掛金	2,452,070	1,988,589
製品	1,042,019	1,343,261
原材料	404,028	488,338
仕掛品	272,357	242,625
貯蔵品	15,209	10,850
前渡金	—	99
関係会社短期貸付金	108,000	188,000
前払費用	69,164	66,050
繰延税金資産	61,833	32,608
未収入金	800,303	660,402
未収還付法人税等	—	200,566
その他	135,368	166,170
貸倒引当金	△184	△157
固定資産	11,416,588	11,012,418
有形固定資産	4,268,339	4,124,483
建物	2,182,825	2,062,949
構築物	106,657	89,442
機械及び装置	535,291	541,873
車両及び運搬具	200	160
工具器具及び備品	246,300	229,511
土地	1,175,335	1,175,335
建設仮勘定	21,729	25,212
無形固定資産	122,463	139,117
投資その他の資産	7,025,785	6,748,816
投資有価証券	1,795,937	1,455,267
関係会社株式	1,384,041	1,384,041
出資金	1,100	1,090
関係会社出資金	1,016,930	1,016,930
関係会社長期貸付金	1,764,000	1,576,000
破産更生債権等	315	—
長期前払費用	958	622
繰延税金資産	175,485	326,010
保険積立金	720,702	780,591
会員権	38,883	—
その他	145,431	226,238
貸倒引当金	△18,000	△17,976
資産合計	18,988,756	18,384,763

(単位：千円)

科 目	第31期 (平成19年6月30日現在)	第32期 (平成20年6月30日現在)
[負債の部]		
流動負債	3,955,313	3,697,719
支払手形	520,742	138,117
買掛金	980,843	981,561
短期借入金	160,000	300,000
一年以上返済予定長期借入金	1,321,214	1,387,586
未払金	264,012	574,367
未払費用	88,150	91,768
未払法人税等	251,389	9,366
前受金	576	44
預り金	81,503	83,200
賞与引当金	73,664	72,501
役員賞与引当金	40,000	—
その他	173,217	59,205
固定負債	3,851,637	3,877,474
長期借入金	3,278,413	3,224,527
退職給付引当金	191,773	242,700
役員退職慰労引当金	378,966	378,966
その他	2,484	31,280
負債合計	7,806,950	7,575,193
[純資産の部]		
株主資本	11,064,126	10,893,639
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,060,960
資本準備金	4,060,960	4,060,960
利益剰余金	2,835,373	2,664,885
利益準備金	39,841	39,841
その他利益剰余金	2,795,531	2,625,044
別途積立金	75,000	75,000
繰越利益剰余金	2,720,531	2,550,044
自己株式	△156	△156
評価・換算差額等	117,679	△84,069
その他有価証券評価差額金	117,679	△84,069
純資産合計	11,181,805	10,809,569
負債純資産合計	18,988,756	18,384,763

損益計算書

(単位：千円)

科 目	第31期	第32期
	(平成18年7月1日から 平成19年6月30日まで)	(平成19年7月1日から 平成20年6月30日まで)
売上高	11,258,812	11,156,628
売上原価	5,993,458	6,804,338
売上総利益	5,265,354	4,352,290
販売費及び一般管理費	3,704,680	3,854,819
営業利益	1,560,673	497,470
営業外収益	207,296	107,085
営業外費用	63,651	311,437
経常利益	1,704,319	293,118
特別利益	1,933	82,451
特別損失	97,340	179,652
税引前当期純利益	1,608,912	195,917
法人税、住民税及び事業税	524,252	73,303
法人税等調整額	59,376	15,682
当期純利益	1,025,283	106,931

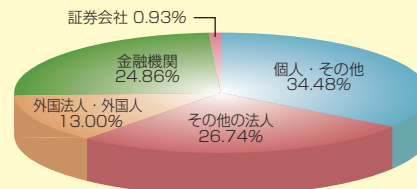
株式の状況 (平成20年6月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000 株
発行済株式の総数	15,852,600 株
株主数	3,465 名

●大株主

株 主 名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
宮 田 昌 彦	1,584,600	9.99
アイシーエスピー有限公司	1,500,000	9.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,304,100	8.22
宮 田 憲 次	1,062,900	6.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	887,000	5.59
セント・ジュード・メディカル株式会社	708,000	4.46
バンクオブニューヨーク・シーエムクライアントアカウント ジェイビーアールティアイエステージェイイー	664,474	4.19
株式会社ハイレックスコーポレーション	600,000	3.78
株式会社ホギメディカル	547,500	3.45
資金管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	418,100	2.63

●所有者別株式分布状況 (株式数15,852,600株、株主数3,465名)



株主資本等変動計算書 (平成19年7月1日から平成20年6月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	2,835,373	△156	11,064,126	117,679	11,181,805
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△277,419		△277,419		△277,419
当期純利益			106,931		106,931		106,931
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)						△201,748	△201,748
事業年度中の変動額合計	-	-	△170,487	-	△170,487	△201,748	△372,236
平成20年6月30日残高	4,167,950	4,060,960	2,664,885	△156	10,893,639	△84,069	10,809,569

▶ 会社の概要

商号	朝日インテック株式会社 ASAHI INTECC CO.,LTD.
設立	昭和51年7月8日
資本金	41億6,795万円
従業員数	●単体 349名（平成20年6月30日現在） ●連結1,964名（平成20年6月30日現在）
本社	〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地 TEL 052-768-1211（代）
事業内容	①心臓循環器系疾患の診断および治療分野においての低侵襲治療製品（治療用カテーテルシステム、検査用カテーテルシステム）の開発・製造・販売 ②ワイヤー素材、アセンブリ品等の産業用ステンレスワイヤーロープの開発・製造・販売 ③消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野における低侵襲治療製品・部材の開発・製造およびOEM供給

役員（平成20年6月30日現在）

代表取締役社長	宮田尚彦
代表取締役副社長	宮田昌彦
専務取締役	竹内謙弉
常務取締役	川西俊昭
常務取締役	福井芳彦
取締役	湯川一平
取締役	宮田憲次
常勤監査役	前田善雄
常勤監査役	渡辺行祥
監査役	佐藤昌巳
監査役	百瀬登

（注）監査役佐藤昌巳および百瀬登は、社外監査役であります。

事務所

●国内事業所

東京営業所	東京都品川区
名古屋営業所	名古屋市守山区
大阪営業所	大阪府和泉市
メディカル事業部	愛知県瀬戸市
大阪R&Dセンター	大阪府和泉市
大阪物流センター	大阪府高石市

●海外事業所

香港支店	中国 香港
EU支店	オランダ アムステルダム
シンガポール駐在所	シンガポール ビジャン地区
東莞石龍朝日精密鋼線廠	中国 広東省東莞市

●関連会社

ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.	タイランド パトゥムタニ県
ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.	ベトナム ハノイ市
ASAHI INTECC USA,INC.	米国 カリフォルニア州
フィルメック株式会社	名古屋市守山区
コンパスマッドインテグレーション株式会社	東京都新宿区



本社（名古屋市守山区）



ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.



ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.



メディカル工場（左）デバイス工場（右）

▶株主メモ

証券コード	7747
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日
定時株主総会	毎年9月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 6月30日 中間配当金 12月31日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店

お問い合わせ先
（郵便物送付先・電話照会先）
 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）

公告方法
 当社ホームページ
 (<http://www.asahi-intecc.co.jp/>)
 に掲載します。

ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株券の種類 100株券、1,000株券

1単元の株式数 100株

上場取引所 東京証券取引所市場第二部
 名古屋証券取引所市場第二部
 ジャスダック証券取引所

IR情報は、ホームページ上でもご覧になれます。

ニュースリリース、財務情報、株主情報など、ホームページ上で最新の情報をご提供しております。

▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7747

携帯電話からもアクセスできます



QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本年次報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

その他ご意見がございましたら、誠にお手数ですが当社ホームページ「お問い合わせ」にご記入ください。
<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」

TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com



〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地
TEL 052-768-1211 (代)

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



この印刷物は環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。